

|            |                                        |            |      |          |      |
|------------|----------------------------------------|------------|------|----------|------|
| 5-1        |                                        |            |      |          |      |
| 主題         | 服薬管理アプリの導入による誤薬防止と業務効率化への取り組み          |            |      |          |      |
| 副題         | AI 顔写真認証の活用による職員の心理的負担軽減と「服薬事故 0 件」の達成 |            |      |          |      |
| キーワード<br>1 | ICT ツール                                | キーワード<br>2 | 服薬事故 | 研究(実践)期間 | 13ヶ月 |

|           |                      |      |                 |
|-----------|----------------------|------|-----------------|
| 法人名       | 社福) 奉優会              | 事業所名 | 特養老人ホームマイホームはるみ |
| 発表者(職種)   | 石川貴一(介護課長)           |      |                 |
| 共同研究(実践)者 | プトゥインテン クルニアティ(教育課長) |      |                 |

|     |              |     |              |
|-----|--------------|-----|--------------|
| 電 話 | 03-3531-7635 | FAX | 03-3531-7625 |
|-----|--------------|-----|--------------|

|       |                                                                                                                                       |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業所紹介 | マイホームはるみは中央区最初の区立特別養護老人ホームとして 1991 年(平成 3 年)に開設されました。保育園・中学校が同じ建物内に合築されている複合施設です。ご利用者一人ひとりが自分らしく、心穏やかに日々を過ごせるよう、安心・安全な暮らしの場をご提供しています。 |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 《1. 研究(実践)前の状況と課題》

介護現場において、毎食後の配薬業務は誤薬が許されない極めて重要なタスクであり、職員にとって大きな精神的プレッシャーとなっていた。従来は紙の記録シートを用いて配薬状況を確認していたが、何十人もの服薬介助を同時に行うため、フロア全体がバタつき、集中して配薬対応を行うことが難しい場面が散見された。また、目視による職員間のダブルチェックに頼っていたため業務フローが煩雑化しており、さらに、似た名前の入居者や食席の変更があった場合など、人間違いによる誤薬リスクを完全に排除できないことが大きな課題である。

### 《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

【目的】服薬アプリを導入し、AI を活用したシステムを構築することで、人間違いによる誤薬事故の防止、配薬業務の効率化、および職員の精神的負担の軽減を図るである。

【仮説】服薬アプリの顔写真認証システムおよびリアルタイムの配薬管理機能を活用することで、職員のダブルチェックを廃止しても誤薬防止が徹底され、業務フローの短縮現場の精神的ゆとり(個別ケアの充実)が実現できるだろう。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

服薬アプリを現場に導入し、以下の運用を開始。

- 1.AI 顔写真認証による本人確認：配薬カートから薬を取り出し、配薬するまでの間、入居者の目の前でアプリのカメラをかざして AI による瞬時の本人識別を行う体制。
- 2.リアルタイムな配薬状況のデジタル管理：従来の紙の記録シートを廃止し、アプリ上で「誰が飲み終わって、誰がまだ飲んでいないか」をフロア全体でリアルタイムに共有・確認できる環境整備を実施。
- 3.データログの蓄積：服薬提供のデータをすべてアプリ内に自動残し、万が一の際にも後追い

で状況が追える体制を構築。

#### 《4. 取り組みの結果》

服薬アプリの導入により、2025 年 5 月 1 日～2026 年 5 月 31 日までの期間において、人間違いによる服薬事故 0 件を達成。

また、現場職員からは以下のような具体的な効果が報告されたのだ。

- ・業務フローの短縮：AI がダブルチェックの役割を果たすことで職員同士の目視確認が不要となり、配薬に要する業務時間が短縮。
  - ・人間違い・誤薬の徹底防止：似た名前の入居者や食席の移動があった場合でも、服用直前にアプリがエラーを出して止める仕組みが働き、人間違いを未然に防ぐことができた。
- また、リアルタイムに未与薬者が把握できるため配薬ミスが防止。
- ・精神的プレッシャーの緩和と個別ケアの向上：経験の浅い職員であっても AI のサポートにより安心して業務を行えるようになり、誤薬への不安が減少した。結果として現場に心のゆとりが生まれ、食堂での見守りや、利用者との会話といった個別ケアに時間を充てることが可能である。
  - ・トレーサビリティの確保：服薬提供データがデジタルで残るため、万が一の際にも迅速に状況を後追いできる安心感が得られた。

#### 《5. 考察、まとめ》

本実践により、服薬アプリの導入は介護現場における誤薬リスクの低減と業務効率化に極めて有効であることが示された。特に、約 1 年間にわたり「人間違いによる服薬事故 0 件」を継続・達成できたことは、本システムの信頼性と安全性を裏付ける大きな成果である。

ダブルチェックを人間から AI へと移行したことで、安全性を担保しながら業務時間が短縮されただけでなく、職員の「誤薬を起こしてはならない」という精神的プレッシャーが大幅に緩和された。現場に心のゆとりが生まれた結果、食堂での見守り強化や利用者とのコミュニケーションといった「個別ケアの質的向上」という副次的効果も確認された。ICT ツールの導入は、単なる省力化に留まらず、介護の安全性を強固にし、専門性を発揮するための環境づくりに寄与するものと考察。

#### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

#### 《7. 参考文献》

服薬介助支援ツールめでいさぼ N ソフトウェア(株)「介護システムで業務効率化」

<https://www.ndsoft.jp/iot-tool/medisapo>

#### 《8. 提案と発信》

介護業界全体の人材不足と負担増が課題となる中、服薬介助のような過度な緊張を強い業務への ICT 導入は、職員の定着やケアの質向上に直結する。今後は、本施設内での運用の定着化を進めるとともに、経験の浅い職員への教育コスト削減効果なども検証し、同様の課題を抱える他施設へ向けて、AI を活用した安全かつ効率的な服薬管理モデルとして広く発信・提案。